

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 5 号

令和2年 1月 13日
横浜市小学校教育研究会
会長 相澤 昭宏
横浜市小学校社会科研究会
会長 梅田 比奈子
同 学年部長 引田 雄士

【提案日】

12月 2日 (水)

提案 田澤 哲哉 先生 (西が丘小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 日下 里子 先生 (大岡小)

記録 佐藤 安世 先生 (大綱小)

1 ミニ提案「単元をふり返る」

別所小

小田島 学先生

単元をふり返ることのねらい (①自分の考えをまとめたり、学び方を見直したりする学習調整の場面を作り出すこと ②この学習活動によって何をどのように学んだかを子どもが自覚できるようにしていくこと) を達成するために、どのような手立てがとれるのかに取り組んだ。

⇒米作りの学習で、単元の終末に、単元を見通す学習問題に立ち戻り、学習したことをふり返ることで、生産者の米農家の思いに気付いたり「学習したことを次の学習につなげる」という学習の価値に気付いたりすることができた。水産業の学習では、自分たちの学びをふり返り、より追究したいことや学習の不足を感じてそれを学習計画に取り入れようとするのが、できていた。子どもたちが学習をふり返り、学びを自覚するためには、ふり返りを行なう意味やそこからどのようなことを学んだのかを子どもたちが自覚できるようにする必要がある。

2 実践提案「情報を伝える人々とわたしたち」

西が丘小

田澤 哲哉先生

～人に寄り添い、地域をつなぐY社の人々～

①自評

- 横浜ケーブルビジョン (YCV) を取り上げるよさが、地域の人々の生活向上や安全・安心、地域の人と創り上げる、地域に寄り添った情報提供、番組作りである一方、実際、学級の1/4の児童しか各家庭で観られていないこと、子どもだけでは情報を集めにくい、地域限定の情報では、単元目標「国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解する」には、少し難しい課題も分かっていた。が、「人とのつながりを大切にしている放送局であること」を捉えさせたい思いがあった。

②研究討議

「地域の人との出会いやつながりを大切にし、地域の活性化にも努めるYCVの働きに気付くための手立て」

- 本時目標で「正確な情報」「活性化」の2つをつめ込んだことが難しかった。「活性化」に気付いけいけるよう、もう1時間とっていいに扱っていくとよかったのではないかと。そのためにも前時までにYCVの基本理念をもっといいにおさえておくことで「活性化」という視点ができただのではないかと。
- 取材時間3時間で得られた中身 (どのようなインタビューをして、どのような答えが返ってきたのか) が、どう編集されて放送される2分になっているのかが具体的な内容で分かる資料があることで、YCVが何を大事にしているのかが分かるのではないかと。
- 紙芝居の内容は、1例であるが、子どもには答えのようになってしまっているので、いくつか比較できるものがあるとよかった。とはいえ、時間も要してしまうので、前時までに3時間のおしゃべりが放送では2分になっている事実を知らせ、実際の2分間の放送内容を観ておく。そして本時で、3時間のお

しゃべりの内容のいくつかを紹介し、そこから「活性化」に気付いけいけるようにするというのもできそう。

- ・「3時間のおしゃべり」に対して、発言NO. 44「会場にいる人とおしゃべりって、何を話しているんだろう」という問いをもった発言から、子どもの思考は3時間のおしゃべりの具体的な内容をいくつか出してあげて禅師の映像と比較
- ・紙芝居が、分かりやす過ぎて、子どもにとっては最後の絵と言葉が「納得する解」になってしまったのではないかと。例えば、最後の1枚は見せずに、最高齢の方を取り上げる理由を考えてみるなどもできそう。本時を前時まで学んできたことと比較したり、関連付けたり、総合したりしながら、これまでの学習を積み重ねたきた発言、前時までの流れが生かせる学習にしていけると、子どもの思考が深まっていくのではないかと。

④指導講評 横浜市立上瀬谷小学校 大竹校長先生より

- ・田澤先生の授業後の自己分析を的確にしている。
(子どもの思いと教師の思いのズレ、資料提示、地域の事例を取り上げるメリットとデメリット)
- ・放送・新聞などの産業の様子を捉える学習として、地元の放送局だけでは、おさえきれない部分もある。大手メディアは、事件事故、全国的なニュースを扱うことから、「正確さ」に加え、「速さ」が重要だと学習する。それに対して地元放送局は、地元の人たちに密着したものになるが、常に大手放送局と比較にしていっていたので、その点では勉強は勧められたのではないかと。
- ・卒業生が出たという興味・関心はあるものの、調べにくいものでもあった。
- ・「資料コーナー」をつくり、YCVの基本理念やホームページなど、常に子どもの身近にあり、見られるようにしておく、子どもたち自身の情報収集がより主体的になっていくだろう。
- ・意外に「取材された方」は多くいるのではないかと。取材された内容、どうして取材を頼んだのかなど、子どもたちにインタビューできるともっと身近になっていったのではないかと。
- ・本時の話し合い(「第1分節」)では、子どもの間違いは正し、すでに子どもが分かっていることは整理し絞っていき、焦点化させていく。⇒子どもたちへの問い返し
- ・YCVのキャッチフレーズ「地域 いきいき、暮らし わくわく」など、視点を与えて考えさせることもできる。

文責 板山 涼 (中尾 小学校)